

Withコロナでの校内研究

伊丹市立総合教育センター

所長 永嶺 香織

校内研究は、めざす学校像や子ども像を実現するために、学校の教育活動の中でも最も重要な取り組みです。

しかし、学校訪問や研究担当者会等において、「コロナ禍の中、様々な工夫をしながら授業改善に取り組んでいるが、主体的・対話的で深い学びを実現することが難しい」といった声を聞きます。

環境を理由に手をこまねいては、めざす子ども像を実現したり、学びに向かう力や自ら考えを表現したりする力はつきません。

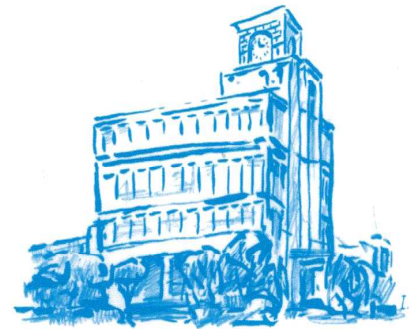
厳しい条件や限られた授業時数の中で、ねらいを実現するためにはどうすればよいか。

1つ目は、改めて、教科における「カリキュラムマネジメント」を行うことです。現在の授業の進捗状況や残りの授業時数などを見直して再配列を行うのです。例えば、履修内容を他の単元や他教科と組み合わせることで定着を図ったり、履修事項の精選を図ったりするのです。

2つ目は、授業の場づくりです。一般的には、感染症対策を講じながら「協働的な学び」を実現することは難しいと考えがちです。しかし、グループを花形にする等の工夫をすることで、ソーシャルディスタンスを確保した協働的な学びの場づくりができます。

教師が一方的に教え込む学習では、知識や技能は身についても、学びに向かう力や自ら考え、自分の言葉で表現する力等はずつきません。現に、新学習指導要領においては、このような力をつけるために評価の観点も「主体的に学習に取り組む態度」に改められました。

研究とは、観察、調査などを通じて、自校の課題を明らかにし、その課題を解決するために有効な手段を追究し、組織的に講じていくことです。めざす子ども像の実現のためにいかなる時も研究を止めることなく進めていくことが大切です。



本時の めあて

コロナ禍における「主体的・対話的で深い学び」 の実現に向けて協働的な学びを止めない

今年度はこのコロナ禍で、授業における「協働的な学び」について悩んでいるという声を多くの学校から聞きます。そこで今月号では新学習指導要領総則第3「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」において示されている7項目のうち「協働的な学習」に関連する項目について、**今だからこそできる協働学習のあり方**という視点から考えてみましょう。

新学習指導要領 総則 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」 において示されている7項目

1. 育成する資質・能力を明確にした授業改善を行う
2. 国語科を要とした言語能力の育成を図る
3. 情報活用能力の育成を図る
4. 「めあて」と「振り返り」を行う
5. 各教科の特質に応じた体験活動を重視する
6. 自主的な学習活動を促す
7. 学校図書館を計画的に活用する

1. 育成する資質・能力を明確にした授業改善を行う
2. 国語科を要とした言語能力の育成を図る
3. 情報活用能力の育成を図る

1. 育成する資質・能力を明確にした 授業改善を行う

①知識及び技能の習得②思考力・判断力・表現力等の育成③学びに向かう力・人間性等の涵養が偏りなく実現されるよう、**単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら**、子どもの主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

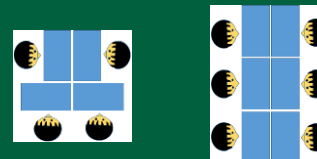


対話的とあるが、話し合いはどうすれば良いの？

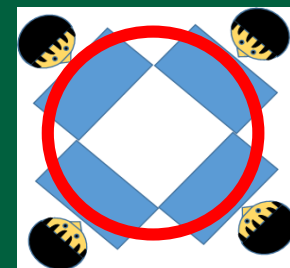


班の形を考えてみてはどうでしょう？

従来の4人班・6人班では対面式かつ、ソーシャルディスタンス（1～2m）が取りにくい形でした。
花型であれば、対面の位置でも2m弱、隣とも約1mほど距離を取ることが可能です。



これまでの班の形



新しい班の形



月

日

曜日

日直



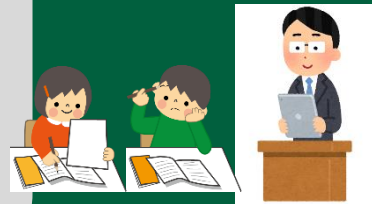
2. 国語科を要とした言語能力の育成を図る

各学校において、必要な言語環境を整えるとともに、**国語科を要しつつ各教科等の特質に応じて、児童生徒の言語活動を充実すること。**

・子ども達が自らの考えを書いたプリント等をコピーしてペアに配布。もらった子どもは内容を読み、気付いたことを付箋等を書いてプリントに貼らせる。それを返却するというのはどうでしょう？隣や班員同士で交換することで、意見交流が行えます。

・班に一枚のホワイトボード（画用紙等も可）を用意し、班の友だちには付箋や短冊を渡します。授業内容についてそれぞれの意見を書かせてホワイトボードに貼り、次回の授業まで教室の空きスペースに置いて情報交換を図るという手法はどうでしょうか。

・子ども達が自ら感じた意見について書いたプリントを交換するシンプルな方法もあります。
新しいことではありませんが、これまでの取り組みの中で使える方法はたくさんあります。



出典：「withコロナの国語授業づくり」
『国語教育』編集部 編

3. 情報活用能力の育成を図る

スクールタクトを活用した班学習

zoomを活用した班学習

1. 「育成する資質・能力を明確にした授業改善」にも有効です。

スクールタクトで子ども達に「課題」を配布。その後、「授業」で共同閲覧モード共同編集モードを活用すれば子ども達は画面を共有しながら協同学習できます。

ブレイクアウトセッション機能を活用すれば、子ども達を班に分けて、班での学び合いが可能です。

設定変更で活用することができます。
ご質問は総合教育センター
情報化グループまで

出典：
「withコロナ時代の授業のあり方」
庄司 寛之
編著 より

発行 伊丹市立総合教育センター
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番
TEL 072-780-2480
FAX 072-780-2482
開館日 月・火・木・金 : 9:00~21:00
水・土 : 9:00~17:00
休館日 日曜・祝日、年末・年始
総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>

<教育相談>
電話 072-772-6171 (電話相談)
072-780-2484 (来所相談)
お子様に関する様々な悩みや課題、
問題等の相談に応じています。
(来所・電話相談)
月・火・木・金 : 9:00~21:00
水・土 : 9:00~17:00

こまったことがあったらすぐ相談

兵庫県教育委員会
ひょうごっ子SNS悩み相談
LINEを使って利用できます

